



東京部会(第 25 回)

日 時: 2009 年 11 月 17 日(火)19:00~21:00

場 所: 日本大学経済学部 3 号館(図書館)4 階会議室

参加者: 篠原(同志社大)、加藤(日大)、中川(日大)、小巻(日大)、大倉(文科省国立教育政策研)、中沖(清水書院)、高橋(桜修館中等教育)、鈴木(日本経済教育センター)、宮尾(筑波大) [順不同]

【内容要旨】

- 最初に篠原先生より以下の報告があった。
 - 1A) 入試問題の検討が関東でも関西でも進んでいるが、明白なのは入試問題のほとんどが記憶を試す「知識問題」という点であること。これをどう直していくかが課題。
 - 1B) 中国の経済教育に詳しい担当者にインタビューしたところ、中国の教育制度は日本と比較的似ているが、経済教育の中身は大きく異なり、「経済生活」という科目が必須で、内容は記憶を試す知識中心でなく、経済の仕組みに焦点を当てているとのこと。
 - 1C) 高橋先生の「囚人のジレンマ」に関するゲームの教材をホームページにアップするのは、ウェブの更新後に行い、別のアプローチで「囚人のジレンマ」をゲームで学ぶ教材と並列して載せる予定。
- 三枝先生が主にかかわっている「企業モデルプラン」の資料に基づいて、篠原先生よりその内容の説明があり、さらにこれまで指摘された問題点や批判点などの紹介があった。企業から経済を考えさせるという目的は理解できるものの、生徒たちの興味を引く内容になっているかどうかという疑問が特に関西のメンバーから出されたという。

今回の東京部会での議論では、企業を通じて生産、交換、分業などの概念と意味を理解させるには、包括的な住宅メーカーに焦点を当てた現在の内容では不十分ではないかという指摘がなされた。むしろ抽象的に、無人島に企業を含む経済社会を構築するような包括的なアプローチのほうが適當ではないか。あるいは住宅メーカーのアイデアを生かすのであれば、川上の生産を行う中小規模のメーカーを考えて、川下の営業や販売は自社でやるか、他社を使うかといった選択、つまり組織か市場かの選択を考えるように修正するのも一案という指摘もなされた。
- 高校の「政治・経済」の教科書における市場のメカニズムと最適性(効率性)の説明について、宮尾より配布資料に基づき、「最適(効率的)な資源配分」の定義をできるだけ簡単に教科書に書き加える提案がなされた。ただし、簡単に最適性を定義することはできるものの、それを「余剰」の概念にむすびつけて、需給曲線の図で分かりやすく説明することの難しさが他の参加者から指摘された。そのような議論を踏まえて、今後ともより適切でより分かりやすい説明を考えていくこととなった。

(文責:宮尾尊弘)

次回開催予定:12 月 16 日(水)19:00~21:00、日大経済学部 3 号館 4 階会議室。

入試問題の内容の検討を中心に議論することになった。

(これまでアナウンスされた 12 月 15 日ではなく、翌日の 16 日に変更されたことに注意)。